

(第2回 平成の大工棟梁育成施策検討会議) 議事録

記録日： 2015年11月20日

記録者： 井上 幸一

団体名	一般社団法人全国古民家再生協会
開催日時	2015年11月20日(金) 17:00~19:00
開催場所	クロスコープ青山 大会議室
出席者	江崎委員・大室委員・鈴木委員・伊藤委員・笹川委員・大森委員・奥田委員・長井委員・井上委員・山口委員・井上
議事	<p>井上委員長より前回の議論に基づいた後の厚生労働省等との打ち合わせの説明がなされ、今回の「提言案」に関して説明がなされた。</p> <ol style="list-style-type: none">1、「ポリテクセンター」「ポリテクカレッジ」の視察・打ち合わせで、今後「大工棟梁を目指す若者」を全国で展開する「ハンドプレカット工場」(古民家再生協会・新林家推進協会認定)で受け入れることを厚生労働省と打ち合わせをしており了解は頂けた。我々の団体が大工棟梁の育成に「社会公共性高きポジション」にできる2、大工棟梁の育成に「厚生労働大臣認定の検定制度導入」が可能となった。 社員検定の制度で「古民家再生協会の事業者会員推薦の大工さんは無料」で「受講できる仕組み」(参加事業者はエントリー費必要)で「消費者に対する大工の技量を提示できる公的且つ唯一の仕組み」で大工棟梁の夢をしっかりと見せることができる3、各都道府県「ハンドプレカット工場」「検定指導員」1社を2月から認定スタートさせて4月から運用していきたい <p>説明後ランダムに各意見が出された</p> <ul style="list-style-type: none">・インパクトが弱く魅力を感じない・厚生労働認可に意味を感じない・墨付け刻みが大事で「ハンドプレカット」を推進するのはいいこと・行政のお墨付きがでることはこれから期待できる・資格制度は必要なく、若者に夢を与える活動をするべき・そもそも資格をやることがおかしな方向に向かっているのではないか・唯一の資格となるなら有名になると共に、あとは各県の中心となるインストラクターの意識次第で若手が育つ・大工さんになりたい人を集める仕組みがない・大工さんは安定した企業に就職したがるのでそもそも私たちがそれができるのか? <p>井上委員長より</p> <p>「大工棟梁育成がボランティア活動になる」ことは避け、社会公共性を高く、その中心となり活動頂くインストラクター企業にとって、「若手を育てる良い企業」となって頂くことも大事にしていきたい。ハンドプレカット工場はスタートしており、その活動を活用するかどうかは第3回会議で決めたら良い。意見がまとまらないので、「厚生労働大臣認定の検定をやるか?やらないか?」「厚生労働大臣の認定を取るか?取らないか?」で委員の意見をまとめたい。</p> <p>厚生労働大臣の名前があった方がいいし、検定はあった方がいい。提案通り厚生労働省と打ち合わせを進めることが承認された。</p>

	<p>その後、次回開催に向けての意見が出され</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ネーミングの問題をしっかりと議論していくべき ・「若手大工棟梁を育てる」を忘れることがないようにしなければならない ・心が入った事業である見せ方を考えて欲しい ・大工棟梁になりたい人の「公的」で「唯一」の受け入れ先を目指しましょう <p>井上委員長より</p> <p>2月に最終意見書として「厚生労働大臣」に渡したい。来年度からスタートして、「皆さんにメール等で意見を頂き、10年掛けて成功させるつもりで取り組んでいきたい」との発言があった。</p>
決定事項	議事内に記載